

## トピックス

2011年6月21日、プロモーションコード委員会主催の「第12回コード実務担当者会」が開催されました。本会は、会員会社のコード実務担当者が一堂に会し、コード委員会の活動について理解を得ること、およびコード遵守について会員各社と共通の認識のもとに活動することを目的として開催しています。会議には71名が参加し、委員会活動報告等につき、事前に実施したアンケートの調査結果やケースメソッドの手法を用いた想定事例問題をもとに活発な意見交換が行われました。

## 新川委員長開会挨拶



新川慶弘委員長

プロモーションコード委員長を福原委員長に代わり務める後任の新川慶弘委員長は開会に当たり、以下の通り挨拶しました。「日頃のプロモーションコードの理解促進、遵守の徹底・推進への尽力に感謝いたします。先般、MSD社が4件の公正競争規約違反行為により医薬品公取協より『厳重警告』の措置を受けたことから、プロモーションコード委員会としても『医療用医薬品プロモーションコード違反措置規定』に基づき審議した結果、多くの『医療用医薬品プロモーションコード』違反が認められました。2010年の当委員会からの『警告』措置にもかかわらず、度重なる違反行為が行われたことは、MSD社のコード遵守の体制を厳しく改善要請する必要があると判断し、『厳重警告』の措置を決定し、社名を公表するとともに、代表者名の誓約書提出と確実な是正措置の実施を課しました。また、製薬協コンプライアンス委員会および理事会において、製薬協会会員会社としての措置は『会員資格停止』処分となりました。製薬協は、研究開発志向型の団体で、患者中心の医療の

実現に向けて医療用医薬品の研究・開発を通じて世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することを目指しています。消費者の目が厳しくなる中、当委員会としても、会員会社が一体となって製薬業界の高い倫理観を追求し、さらなるコードの周知徹底活動を展開しますので、会員会社の各社におかれましても適切なプロモーション活動を推進していただきますようお願いします」。

## 活動報告

## 平成23年度事業実施計画の重点課題

1. プロモーションコードの一層の周知徹底
2. プロモーションコードに関する問い合わせ、苦情申立て、および違反事案の迅速かつ適切な処理
3. 国際委員会と連携し、IFPMAとの国際的協調を推進

上記の重点課題について森田実務委員長より紹介があり、活動状況が報告されました。コードに関する問い合わせ・苦情申立ての処理状況においては、処理件数の推移報告と合わせて、該当会員各社はプロモーションコードの精神を十分理解し、迅速な改善対応をとるよう要請がありました。また、2011年度の委員会組織・実務委員会組織について説明があり、実務委員会は「海外コード」、「会合企画」、「理解促進」、「措置規定」の4つのタスクチームで活動し、アウトリーチ活動の一環としてプロモーションコードに関する医療関係者の意識調査を実施する予定であるとの報告がありました。



グループディスカッション・会議風景

活動報告に引き続き、「医療用医薬品プロモーションコード違反措置規定」の改定について説明がありました。主な改定点は、前文、第1条：違反に対する措置、第2条：措置の対象、第3条：違反の判定、第4条：措置の決定と通知、第5条：違反会社の責務、第6条：報告、第7条：本規定の改定、において内容を見直し再編成するというもので、6月15日の製薬協理事会で承認を得て改定となり、7月1日から実施されています。

## ディスカッション

ディスカッションでは参加者を10グループに分け、各グループからの発表がありました。発表に対する意見交換を行いコード遵守への認識を新たにしました。

1 題目は浦郷実務委員の進行により、ケースメソッドの手法を応用して未承認薬の情報提供に関するテーマで、「共催セミナーでの海外情報提供」という事例問題についてのグループディスカッションが行われました。これは、国内で未承認の効能効果をテーマとした自社品関連の共催セミナーを依頼されたという設定で、実施の可否および実施する際のプロモーションコード上の注意点などについて活発に討議された後、質問ごとに各班から発表があり意見共有されました。多くの論点（肯定意見・否定意見等）を出し合いまとめたうえで、各質問に対する考え方をその根拠とともに導き出し、参加者が各社内で指導を行ううえで、事例研修として非常に参考になりました。

2 題目は牧実務委員の進行により、「アウトリーチ活動」に関するコード委員会および会員各社が取り組む課題についてグループディスカッションが行われました。グループディスカッションに先立ち、これ

までに実施されたアウトリーチに関する会員向けの活動および対外的活動が具体的に紹介されました。また、2010年に実施された「医療関係者のコード理解促進活動」に関する会員各社に対するアンケート結果より、各社のアウトリーチ活動の実施状況が報告され情報共有されました。

## 閉会挨拶



川邊新専務理事

川邊専務理事が閉会挨拶として、「アウトリーチ活動は、プロモーションコード委員会だけでなく、製薬協全体として何をすべきかが大事ですので、これまで以上に会員会社には協力をお願いします。コード実務担当者の皆さんが先頭に立って、マーケティングを含めたプロモーション活動をしっかりチェックしてください。コードに書かれているか否かで判断するのではなく、コードの精神をよく理解して疑わしいことは行わないようにしてください。今後も業界全体の倫理向上と会員各社のさらなるコード遵守への取り組みをお願いします」と述べ、本会を締めくくりました。

(プロモーションコード委員会 実務委員長  
森田 美博)